



学校教育がスーツにネクタイというフォーマルなイメージだとすれば、社会教育は普段着の教育、つまり日常生活を通じてあいさつや他人に親切にできるように育むことも大切な教育です。ちなみに私が3年

私の専門「社会教育」とは、簡単にいえば「学校教育以外の教育」ということになります。たとえば、「ものはどうすれば燃えるのか」について、学校教育では燃料や発火点、酸素などに関する知識を学びます。では、その知識だけで薪に火をつけられるかといえば、初めての人には難しいものです。つまり知識は、地域や家庭などで実際に経験しなければ、本物の知恵にはならないです。この実践こそが社会教育の本質であり、子どもたちの健全な成長には欠かせません。より多くの体験活動をした子どもほど、倫理観、正義感、自己肯定感が高まるというデータもあります。



社会教育ってなんだろう？

それは、知識を知恵にかえる普段着の学び。

前に北翔大学に来て、初めて接したのはジャージ姿の学生でした。迷路のような校舎の中で迷っていたら、スポーツ教育学科と思われる女子学生2人が「どこかお探しますか？」と声をかけてくれて、目的の部屋まで連れて行ってくれたんです。これこそ普段着の教育の成果ですね。これがとてもうれしかったので、今では私も、迷っている1年生を見かけるたびに案内しています（笑）。

さて、私は健康福祉学科の教員ですが、ゼミや講義ではスポーツ教育学科の学生も受け持っています。ゼミのテーマはやはり社会教育で、子どもの体験活動などについて、学生たちが多様な研究を進めています。そのなかで直面するまちづくりや高齢化などの諸課題は、公務員試験の小論文のテーマとシテします。それもあって、ゼミ生の多くが公務員志望なんです。また、私が公務員試験対策を行っている就業力特別演習も、履修者のほぼ半数が私のゼミ生です。赴任した年は11名、昨年度が13名、そして今年度は14名と、徐々に合格者数も伸びています。



ゼミの卒業生との交流会の様子

PROFILE 1954年4月29日生まれ。北海道教育大学を卒業後、小学校教諭や北海道教育委員会の社会教育主事などを経て、国立オリンピック記念青少年総合センター、国立教育会館社会教育研修所、北海道教育庁生涯学習部などに籍を置きながら、道内外で社会教育と生涯学習の推進に努めてきた。2017年から現職。

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】令和6年5月まで（常時受付入れさせていただきます）

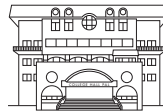
【お問い合わせ】総務部総務課まで／詳細は本学ホームページをご覧ください。

<https://www.hokusho-u.ac.jp>

御礼申し上げます

本学同窓会淑萃会様より
6,588,000円のご寄付をいただきました。
（令和元年度）

ご支援賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。



特集「学生インタビュー／本前 郁也」

Campus Archive

Way to go!

University & College News

新着NEWS

Hokusho People

北翔大学初！ いざプロ野球界へ、 「無」から歩みだす サウスポーの挑戦。

硬式野球部のエース・本前郁也投手が、

2019年のプロ野球ドラフト会議にて、

千葉ロッテマリーンズから育成1位指名を受けました。

本学学生としては初めての道を歩みはじめる本前投手に、

現在の心境などを聞きました。

本前 郁也

Fumiya Motomae

もとまえ・ふみや／札幌市出身。スポーツ教育学科競技スポーツコース 4 年次。札幌学生野球リーグでは2年春、3年春・秋の3度、最優秀投手に選出。大学通算14勝。左投げ左打ち。

教育理念

「愛と和と英知」

学校法人北翔大学は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて80年の歴史を刻んでまいりました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指しています。

愛／人間の存在とその価値を認め尊敬して行きたいと願う温かな心情、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

和／互いの違いを理解したうえで取り結ばれる平和を希求する心、友情、協調性。他者への深い理解と柔軟で寛容な精神の育成。

英知／深遠な道理を探索し、深い知性、実践的な知恵。真の実在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。

【今日の定義】常に変化する社会に向かって莫大にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、より高い専門性と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成

【建学の精神】女性の社会的地域の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成

建学の精神

1939年（昭和14年）、本学の母体となった北海道レスメーカー女学園創立時に定められたものです。この建学の精神は、自立の手段に限られ、狭い社会に閉じこめられていた女性に職業的技能と教養を身につけることを目指すという、当時としては、「時代を先取りした精神」をもっていました。その後、社会は大きく変わり、今日、高等教育機関には、男女を問わず一人ひとりが人間として幅広い教養を身につけ、自立的な社会人を育成していくことが求められています。こうした経緯を踏まえ、「建学の精神」のもつ本旨を今日の定義に敷衍し、表記のとおり定義します

1球1球、地道に積み重ねた努力が、夢を現実にも。

——育成ドラフト1位指名、おめでとうございます。これからプロの道を歩んでいく本前さんですが、野球を始めたのはいつからですか？

小学校3年生の冬です。小学生のころはプレーするの、もちろん好きでしたが、どちらかといえば観るほうが好きでした。ファイターズが大好きで、ファンクラブにも入っていました。当時は新庄選手、稲葉選手、森本選手、ダルビッシュ選手などが活躍した時代で、強かったですし、新庄選手などのパフォーマンスもおもしろかったですよね（笑）。とくに好きだったのは稲葉選手。5年生までは外野手メインで、同じ左バッターだったこともあり、勝負強いバッティングに憧れていました。

——中学校、高校時代はいかがでしたか？

小学校6年生になってから何度かピッチャーとして登板させてもらう機会があり、中学校ではトルシニアのチームにピッチャーとして入団しました。直球が遅かったので、カーブを組み合わせて抑えるピッチングでした。高校時代は、2年生から体も大きくなり、最終的には球速が136キロまで出るようになりましたが、すごく速いわけではないので、コースに投げ分けるスタイルを追求した感じですね。

3年生の夏は全道大会に進んだものの、初戦の駒澤大学附属苫小牧高等学校戦で自分が打たれまくって、コールド負けを喫しました。野球は高校で辞めるつもりだったのに、この敗戦が本当に心残りで、このままでは辞められないという気持ちになりました。それでいくつかの大学の体験練習に参加し、とても

よい雰囲気だった北翔大学で野球を続けることにしたんです。

——強い気持ちで大学野球に挑んだんですね。

はい。ただ、1年生の春から投げさせてもらいながらも、本当に成績が悪くて、いつも先輩方に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。このままじゃダメだというときに、当時エースだった3年生の先輩に声をかけていただき、一緒に練習をさせてもらいました。アドバイスをもらいながら、追いつくために必死で取り組んでいたら、どんどん球速が出るようになったんです。今の最速は148キロですね。

先輩方のおかげで成長できたので、学年が上がる



無心でありながら、考えて投げる。それができるようになったのが、大学時代の大きな成長です。——本前

とともに、自分も後輩に伝えられることはできるだけ伝えていこうと心がけました。スポーツ教育学科にはコーチングを学べる授業があり、後輩に教えるという面ではとても役立ったと思います。

——そのほか、大学で成長を実感できたことは？

バッターとのかけ引きが上手くなったこと、そしてどんなにピンチになっても、余計な思いを捨てて無心になることで、余裕がもてるようになったことです。グローブにも、3年生の秋から無心、無欲の「無」という文字を入れました。また、監督が自由にやらせてくれる分、何事も自分で考えて行動するという面でも成長できたと思います。無心

——それから1か月ほど経った現在（11月）の心境はいかがですか？

育成契約となりますが、プロの世界に行けるのは本当にうれしいことです。年明けすぐに新人合同合宿があるので、しっかり準備をしておきたいですね。埼玉西武ライオンズの齊藤誠人捕手は、小学校と高校で同じチームに所属し、2つ上の先輩だったんです。齊藤選手も育成からプロに入って、今年支配下登録をされました。大学時代に一度だけ対戦したことがありますが、ぜひプロの舞台でも対戦したいですね。そのためにも、球質、コントロール、配球面、すべてにおいてプロの先輩からたくさん学び、まだまだ成長していきたいと思っています。



でありながら、考えて投げる。そうすることでマウンド上で視野が狭くならず、堂々と投げられるんです。

——そして10月、ドラフトで指名を受けました。その瞬間のことを教えてください。

ドラフト前に数球団から調査書が届き、自分もプロに進みたい気持ちがありましたので、指名されたときのためにしっかりトレーニングをしながら待っていました。当日は監督の部屋で、監督、コーチ、部長とともに待機していたのですが、名前を呼ばれた瞬間は「本当に自分なのかな？」とよく理解できず、うまく反応できませんでした。まわりにいた皆さんが「おめでとう！」と拍手をしてくれて、まだ実感が湧かず、とても薄い反応で「ありがとうございます」と返した記憶があります（笑）。

III Report

「第10回 北翔大学現職教員研修会」を開催しました

令和元年9月28日に第10回北翔大学現職教員研修会を開催しました。この研修会は、学校現場で教員として働く卒業生を対象に、学校教育の今日的課題の理解を深め、より実践的な教師を目指すことを目的として、今年度で10回目を数え、今回は全道各地から26名の卒業生が参加してくれました。

日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントシニアファシリテーターの長縄 史子氏をお招きし、『心に寄り添うアンガーマネジメント～新しい時代を生きるために～』と題し、ご講演をいただきました。

講演会の後は、学校種ごとに分かれての分科会を実施しました。学校現場で同じような悩みや課題を抱えている先生方同士が、大学の教員と一緒に解決の糸口について話し合いました。

最後に懇親会を開催し、美味しい料理やビンゴ大会など楽しい時間を過ごしながら、北翔大学同窓生としての絆を深めることが出来ました。今後も教員養成に力を注ぐとともに、現場で働く卒業生の皆さんを継続的に支援していきます。



III Report

「ふるさと江別塾」を開催しました

ふるさと江別塾は、市民の皆様の高い知的欲求にに応えることができるよう、江別市と市内4大学の連携協力により、大学が保有する専門的知識と人材を活用した学習の機会の場として毎年開催されてい

ます。本学では令和元年10月12日に防災についての講座を開催しました。台風19号の北上とも重なり、約80名の受講者は真剣な表情で講義を受けられていました。



右上／講義1「江別の土地のつくりと災害」講師：教育文化学部 教育学科 准教授 横山 光
左・右下／講義2「江別市における防災」講師：大学院 生涯学習学 研究科 教授 千里 政文

III Sports

「えべつ健康フェスタ2019」に出展しました!



令和元年10月6日、大学院生涯スポーツ学研究科及びスポーツ教育学科の学生と教職員が、野幌公民館で開催された「えべつ健康フェスタ2019」に体力測定コーナーを出展しました。本学は毎年、体力チェックコーナーを出展しており、昨年に引き続き成人対象の種目と子ども対象の種目を用意しました。握力、長座体前屈など計6種目の測定を用意し、約230名余りの方が参加されました。学生らは、参加者とのコミュニケーションをはかりつつ、安全重視で臨機応変に対応していました。

III Sports

パラスポーツの輪広がれ!

第2回「パラスポーツ体験会・体力測定会 in 北翔大学」終了!



令和元年10月6日に、本学北方圏生涯スポーツ研究センター（通称スポル：SPOR）においてパラスポーツ体験会・体力測定会が行われました。

今年は2会場で体験会を実施し、約200名のみなさんが様々なパラスポーツ体験を行いました。義肢装具や冬季競技の機材にも触れていただくことができました。

各種目の実施は、本学生涯スポーツ学研究科大学院生を中心に、障がい者スポーツや特別支援教育、アスレティックトレーナー、福祉について学ぶスポーツ教育学科と健康福祉学科の学生が支援しました。本事業が北海道のパラスポーツの可能性を広げる機会になれば幸いです。

III Report

文京台小学校と「連携協定」を締結しました

令和元年10月4日、北翔大学・北翔大学短期大学部と江別市立文京台小学校との連携協定調印式が本学会議室で執り行われました。両校の関係は以前より大変深かったため、全国でも珍しい、大学と小学校との協定締結につながりました。

両校を代表して、文京台小学校6年生の児童3名、本学の学生6名が出席し、児童の体力向上を促す運動指導や、運動会などの行事、スキー、水泳学習のボランティア、えべつ土曜広場等での理科実験教室、教員による授業支援、校内研修支援など、今まで継続してきた連携活動を元に、今後の活動に向けて互いに言葉の交換を行いました。教育研究の取り組みをさらに活性化させて参ります。



III Report

北翔大学短期大学部

ライフデザイン学科公開講座

「組織の再生と破壊」開催のご報告

令和元年11月9日公開講座「組織の再生と破壊」を開講いたしました。道内外、一般企業、行政、病院、多領域の方々のご参加を得て110名の皆様にご聴講いただきました。

公開講座「組織と再生」冒頭では、山谷学長によるご挨拶で開会し、学生スタッフによる司会進行で展開いたしました。2本の講演では、元北海道拓殖銀行頭取 河谷 禎昌氏により「組織と人」と題して第1講話を、そしてライフデザイン学科長 田口 智子により「命題 組織の創造的進化」と題して第2講話を行いました。限られた時間内とはいえ穏やかながらも活発な意見交換が行われました。



バドミントン部

「第66回 北海道学生バドミントン会長杯争奪選手権大会」結果報告！



「第66回 北海道学生バドミントン会長杯争奪選手権大会」が令和元年11月1日～11月4日に深川市総合体育館にて開催されました。本学バドミントン部の結果を以下の通りご報告させていただきます。

【女子シングルス】

- [優勝] 内山 真希 (スポーツ教育学科1年)
- [準優勝] 酒井 虹穂 (スポーツ教育3年)
- [3 位] 向井 仁那 (教育2年)

【女子ダブルス】

- [優勝] 向井 仁那 (教育学科2年)
内山 真希 (スポーツ教育学科1年)
- [準優勝] 増永 優香 (ライフデザイン学科2年)
佐藤 萌 (ライフデザイン学科1年)
- [3 位] 高柳 美月 (スポーツ教育学科2年)
大宮 菜々花 (スポーツ教育学科1年)

【男子シングルス】

- [3 位] 小川 涼真 (心理カウンセリング学科2年)

【男子シングルス】Bグループ

- [3 位] 山方 庸平 (スポーツ教育学科2年)

【男子ダブルス】

- [優勝] 遠藤 真彦 (スポーツ教育学科3年)
高橋 大輝 (スポーツ教育学科2年)
- [準優勝] 外間 翔 (スポーツ教育学科3年)
高橋 魁 (スポーツ教育学科2年)
- [3 位] 小川 涼真 (心理カウンセリング学科2年)
大田 海人 (スポーツ教育学科1年)

トレーナー部

「命を守る 救急搬送法講習会」実施

令和元年10月21日に本学学生団体を対象とした救急搬送法講習会を本学(スポル)1階多目的ホールで実施いたしました。講習会では本学トレーナー部(赤十字救急法救命員認定資格者)学生が講師となり、「命を守る」をテーマに実際に想定される緊張感を伝えながら実践形式で指導が行われ、体育系・文化系の合計31団体が参加し、搬送法に関わるプロセス(確認、計画、行動)を学んだ後、複数人ひと組で行う搬送法、一人で

行う搬送法のほか、施設の階段や障害物を想定した担架・バックボードを使った搬送法について学びました。

本学は教職課程を履修する学生が在籍することや、課外活動を行う上で、事故発生時における適切な対応方法を習得することは有益であるため、学生団体を対象に第1弾・5月「命を守るAED講習」、第2弾・10月「命を守る救急搬送法講習」の講習会を実施しています。



女子バレーボール部

「女子バレーボール部 春季リーグ戦」2年連続27回目の優勝！



令和元年9月28日に開幕し、約1ヶ月に及んだ秋季リーグ戦が先日終了しました。10月12日から14日の本学ホームゲーム戦はもとより、各節たくさんの応援を頂き、本当にありがとうございました。おかげをもちまして、女子は2年連続27回目の優勝を飾ることが出来ました。昨年の秋季リーグ戦以降道内リーグ公式戦では連勝を続けておりましたが、今季は2敗を喫し厳しい戦いでありました。しかし、4年生のリーダーシップを中心に、最終戦までよく戦い抜きました。課題は多く残されていますが、まずは優勝、連覇を成し遂げたことは、選手スタッフ全員の頑張り

と成長と思い、誉め讃えたいと思います。

すべて思いを伝えきれませんが、まずは多大なる

ご支援ご声援に深く感謝申し上げます。今後とも女子バレーボール部へのご声援をよろしくお願い致します！まだまだ頑張ります！

■最終結果【女子優勝】

- [優勝] 北翔大学 (6勝2敗)
2年連続27回目
- [2 位] 東海大学 (6勝2敗)
- [3 位] 札幌大学 (4勝4敗)

■個人賞

- [セッター賞] 白澤 美南 (スポーツ教育学科4年)
- [リベロ賞] 畠山 初音 (教育学科4年)

CLUB, CIRCLE AND OTHER ACTIVITES

ニュース【全国大会】

「第57回 技能五輪全国大会」に学生が出場しました！

令和元年11月15日～18日に行われた「第57回 技能五輪全国大会」に齋藤 亜愛香さん(芸術学科3年)が北海道代表として出場しました。

洋裁の部門では、全国各地から24名が選ばれ、10時間でジャケットを制作します。シルエット、身頃、えり、袖、手まつり、糸くずれや汚れ、安全衛生・作業態度、全体の仕上げといった採点項目で、10時間という制限の中で競技します。惜しくも入賞はできませんでしたが、最後まで諦めずに取り組み健闘しました。



ニュース【イベント】

NoMaps 札幌駅前チカホ会場に芸術学科学生の作品を展示

札幌中心部で開催のクリエイティブ系イベント「No Maps (ノーマップス)」のローカル・クリエイターズ・エキシビジョンに芸術学科の学生有志チームが制作したメディア・アート作品「3面空間が移り変わるトランス プロジェクション」を展示しました(制作指導：小室研究室)。人目を引く作品に多くの方々足を止めて見入っていました。





UNIVERSITY & COLLEGE NEWS

学部・学科ニュース

教育文化学部

教育学科

Department of Education

文京台小学校で生活科の授業参観 ～「子どもたちの笑顔」「先生ってすごい!」～

令和元年11月20日、江別市立文京台小学校において第1・2学年の生活科の授業参観を行いました。教育実習を控えている初等教育コース2年生が「生活科指導法Ⅱ」の講義を活用して参観し、教師の発問や板書、児童への関わり方等、教師の実践的指導力を学ぶ機会となりました。本学は文京台小学校と連携協定※を結んでおり、従前より双方向の授業支援や学生ボランティアの派遣等、連携事業を展開して参りました。教育学科では、大学で学ぶ理論と学校現場の実践を関係付けながら、主体的に考え行動できる教員の養成を目指しております。

※令和元年10月14日正式調印



生涯スポーツ学部

School of Lifelong Sport

スポーツ教育学科

Department of Sport Education

「第13回 健康プランニング学科・スポーツ教育学科 卒業生交流会」の開催!

令和元年11月2日に第13回目となる卒業生交流会を開催しました。学校現場で活動している中学や高校の教員、健康を支える健康運動指導士、民間の企業で働いている方など、多方面で活躍している卒業生たちが集まりました。

交流会に先立ち、教員、健康運動指導士、トレーナー、公務員の卒後研修会が学内で実施されました。なかでも、本学科の卒業生で中学・高校に勤務する保健体育科教員は100名を越え、北海道内に北翔大学出身の教員が数多く活躍していることから、教職関係の同窓会組織「北翔会」が立ち上がりました。毎年11月の第1土曜日に卒業生交流会を開催しています。来年は、さらに多くの卒業生たちと交流できることを楽しみにしています。



健康福祉学科

Department of Health and Welfare Science

介護福祉士を目指す3年生、 6週間の「施設実習－介護実習Ⅱ－」終了!

介護福祉士になるためには2年次から4年次まで計4回の実習があります。夏休みの真っ只中、3年生は最後の施設実習である「介護実習Ⅱ」に取り組みました。受け持ち利用者さんのより良い生活のために介護計画を立て実践します。また、レクリエーションの企画・実践(写真)や夜勤実習もあり、盛りだくさんの6週間でした。実習後は全員で事例検討を行い、実習の学びを報告集にまとめ、報告会で発表します。そして、4年次には集大成の訪問介護実習が待っています。

一方、2年生は春休みの2・3月に初めての長期施設実習「介護実習Ⅰ」に臨みます。期待と不安の中、着々と準備を進めています!4週間後の成長が楽しみです!



芸術学科

Department of Art and Design

「第10回 N1モードグランプリ2019」 グランプリ、準グランプリ、NDC賞獲得!!



日本デザイナークラブ北海道主催の第10回N1モードグランプリ2019が札幌円山キャンパスで令和元年9月14日に開催されました。若手デザイナーの育成を目的としたコンペティション。モデル着用のショー形式による公開実物審査会で、卒業生の明石 知巳さんがグランプリを受賞、4年生の浅野 茉衣香さんが準グランプリ、NDC賞とダブル受賞しました。

- グランプリ『Spooky』(明石 知巳/卒業生)
- 準グランプリ『continuous』(浅野 茉衣香/芸術学科4年)
- NDC賞『Physical modeling』(浅野 茉衣香/芸術学科4年)

短期大学部

Hokusho College

ライフデザイン学科

Department of Life Design Studies

「理論と実践教育」でスキルアップ!

ライフデザイン学科は、職業人として求められる社会人基礎力を念頭に、活きたビジネス教育を展開しています。キャリアデザインコースでは、ビジネスの仕組みを理論的に学び、その後、自ら仕入れ－納品－営業－販売－商品管理－財務管理等、一連の流れを実践教育として導入しています。

また、秘書教育の一環として、美味しく、楽しく学ぶプログラム「テーブルマナー」を設定しています。学生たちは、札幌グランドホテル様にてセミフルコースに舌鼓を打ちながらテーブルマナーを学びました。学ぶべき時にはしっかり学ぶ!そして、楽しむ時には大いに楽しんで学ぶ!これがライフデザイン学科の活きたビジネス教育です。



心理カウンセリング学科

Department of Psychology and Counseling

こころと生活のつながりを学ぶ「宿泊研修」

心理カウンセリング学科では1年次において宿泊研修を実施しています。今年度は令和元年9月18日・9月19日に留寿都村とニセコ町を訪れました。初日には高大連携協定締結校である留寿都高校にて農業体験として畑でのジャガイモ掘り・ビニールハウス見学、そして福祉体験として手浴を実施し、その後宿泊先ではグループワークにてコミュニケーションゲームを行いました。2日目にはニセコ町民センターにてうどん打ちを体験しました。この研修を通して学生達はこころと生活のつながりを学び、また学生相互のコミュニケーションもこれまで以上に深まったようです。



こども学科

Department of Childhood Studies

実り多き「こどものくに」を終えて

令和元年9月28日、北翔大学大学祭において、こども学科1年生による恒例の「こどものくに」が開催されました。「保育内容演習Ⅰ」の授業にて、子どもの発達に応じた遊びや環境構成について学び、実践の場とおして表現力・想像力を高めるために行っています。音楽・保育・教育各コースの特色を生かし、前学期から親子で楽しめるコンサートやさまざまな遊びを企画し、準備してきました。当日は380名以上の方々をお迎えし、子どもたちからたくさんの笑顔とエネルギーを得て、学生たちはかけがえない経験を積むことができました。この体験をとおり、後学期はより専門性の高い学びを重ね、保育者・教育者になれるよう一層奮闘しています。



高大連携

月形高等学校との高大連携活動「ツキトーク」を開催しました

令和元年9月25日に、月形高等学校の全校生徒と本学の学生有志がワークショップ形式で交流する、恒例の高大連携活動「ツキトーク～遠くいてもtalkでつながる～」が開催されました。教育学科の三浦公裕准教授の引率により、本学スポーツ教育学科と教育学科の学生18名が月形高校に出向き、講師として活躍しました。

今年のトークテーマは「学習の意義について」、「高校3年間でしておくべきこと」の2点です。話す・聞く・話し合うという連続性のある活動を通じた双方向のコミュニケーションを体験する貴重なひとときとなりました。



旭川龍谷高等学校の生徒が来学しました

令和元年10月31日、旭川龍谷高等学校の特進Aコース1年生40名と引率教員3名が来学されました。5グループに分かれて講義を受講した後、学食体験や本学在学生の案内による施設見学をしました。

講義体験内容	
運動指導とスポーツ科学	スポーツ教育学科 渡部 峻 講師
相談援助実習指導I	健康福祉学科 岩本 希 講師
テキスタイルデザイン	芸術学科 大信田 静子 教授
ポジティブ心理学入門	心理カウンセリング学科 風間 雅江 教授
保育内容言葉	こども学科 中島 啓子 教授



北海道留寿都高等学校の生徒が来学しました

令和元年11月13日、北海道留寿都高等学校の生徒15名と、引率教員4名が来学されました。高校生の皆さんは熱心にメモを取りながら、各施設の説明に耳を傾けていました。本学の卒業生2名が留寿都高等学校の教員として勤務して

います。内1名が今回、引率教員として来学され、元気で活躍している姿に私達も嬉しい気持ちになりました。



同窓会

部活・サークルに援助

淑率会では部活・サークル活動に対して援助金を支給しており、平成18年から毎年200万円を予算化しています。数ある大学の中から我が母校を選択してくれた事に先輩としてお礼の意味も含め応援をしたいとの趣旨で設けられました。部活・サークルは学業とは別に自己表現、自己現実を培う分野です。少しでも経済的に後押しができればと考えました。

年度当初に申請をしてもらい、調整をし、決定、実行の手順となります。調整は淑率会独自で行い所属人数、活動内容、実績等を総合的に判断して金額を決定しています。援助項目は様々で遠征費、道具の購入、研修費、合宿費等々多岐にわたっています。豊かで実りある学生生活を送って欲しいと願いを込めてこれからもお役に立てればと思っています。

OPEN CAMPUS

2019-2020



冬のオープンキャンパス開催！

12月8日(日)にミニオープンキャンパスを開催しました。北海道内・外からたくさんの高校生や保護者の方にご参加いただきました。次回は3月8日(日)にオープンキャンパスを開催します。体験授業やキャンパスツアーなど多彩なプログラムを用意し、教職員一同心よりご参加をお待ちしておりますので、本学に興味をお持ちの方へご参加くださるようお声がけをお願い致します。

オープンキャンパス開催日 第5回／3月8日(日)

【お問い合わせ】アドミッションセンター TEL：011-387-3906



ちよっと
使
い
や
す
く
な
り
ま
し
た。

令和元年8月、図書館システムの更新作業が終わり、図書館が少し使いやすくなりました。1階グループ学習ゾーン内のパソコン(8台)で作成した文書を、受付カウンター前のプリンターで印刷できるようになりました。学生番号と文書名で自分の原稿を指定するので、他の人の印刷物と紛れるトラブルもなくなりました。カウンターで借り出した資料には、レシートプリンターで印刷した貸出票をつけます。資料名と返却予定日がすべて1枚に印刷され、何冊借りてもわかりやすいと好評です。ホームページでは「新着資料」の案内を表紙画像のカラーセル表示でお知らせします。ほぼ毎日更新しますので、どうぞお楽しみに。

北翔大学図書館



令和2年3月～令和2年9月【共通行事予定】

2020年			
3月	8日(日)	オープンキャンパス	1日(土) オープンキャンパス第3回①
	18日(水)	学位記授与式(11:00)	2日(日) オープンキャンパス第3回②
4月	2日(木)	在学生オリエンテーション	13日(木) 夏季休業(教職員)(～16日)
	3日(金)	入学式	29日(土) 第1期編入学試験(全構内立入禁止)
	6日(月)	オリエンテーション(～7日)	13日(日) 保護者懇談会(本学会場)
5月	8日(水)	前学期講義開始	19日(土) 保護者懇談会(旭川、北見、帯広、函館)
	24日(日)	オープンキャンパス第1回	26日(土) 大学祭
6月	21日(日)	オープンキャンパス第2回	

今年もたくさんの「せんせい」が生まれます！

北翔大学では、前身である北海道女子短期大学を1963年に開設以来、主に北海道内の教育現場へと多数のせんせいを送り出してきました。長い歴史が培った教員養成のノウハウと、担当教員の親身な指導によって、現在も高い合格実績を誇っています。

合格おめでとうございます！令和元年度教員採用候補者選考検査

登録者数 **124**名
令和元年12月2日現在